

使徒聖ヨハネ第二書簡

第一章 長老は選を蒙りたる夫人及び其子等、即ち我並に、畜我のみならず、総て眞理を識れる人も亦、二今我等の中に止りて、而も限なく我等と共に存すべき眞理に對して、眞に愛する所の者に一書簡を贈る。三願はくは恩寵と慈悲と平安とが、父にて在す神及び父の御子イエズスキリストより賜はりて、眞理及び愛に於て汝等と共に在らん事を。四我汝の子等の中に、我等が父より掟を受け奉りし如くに歩める者あるを認めて、甚だ喜べり。五夫人よ、今新しき掟を贈るものとせず、之を初より受けたるものとして相愛せん事を汝に冀ふ。六愛とは我等が其御掟に従ひて歩むべき事是なり。御掟とは即汝等が初より聞きたるがままに歩むべきもの是なり。七蓋肉體にて來り給ふイエズス、キリストを宣言せざる、多くの誘惑者世に出でたり、是ぞ誘惑者にして又非キリストなる。八汝等己に省みて、我等が曾て働きたる所を失はず、充滿せる報酬を受くる様にせよ。九總てキリストの教に止らずして退く者は神を有し奉らず、教に止る者は父及び御子を有し奉る。一〇若汝等に至る者にして、此教を贗す事なくば、之を家に入る事なく、之に挨拶すること勿れ。二其は之に挨拶する人は、其惡しき業に與ればなり。一三書贈るべき事尚多くあれども、我は紙と墨とを以てするを好まず、是汝等の喜の全からん為に、汝等の中に在りて口づから

語らん事を希望すればなり。二三選を蒙りたる汝の姉妹の子等、汝に宜しくと言へり。